

2022 年度チャレンジ育英制度 (論文奨励)募集

チャレンジ育英制度論文奨励の応募を

2022年9月12日～9月30日で受け付けます。

今年度の論文テーマは、以下の5種類です。 ※詳細は別紙を参照

- ① 『文教大学への提言』
- ② 『過去に学んで未来に活かすにはどうしたよいか』
- ③ 『「女性が輝く社会」実現のために、今できることは何か』
- ④ 『大学・大学生と地域とのつながりについて』
- ⑤ 『文教大生が行うSDGs 活動の提案』

文教大学生として日頃の研究活動や勉学の成果、体験した意見・抱負を論文として表現することを奨励し、採用者には、育英金(上限10万円)を給付する制度です。

少しでも興味のある方は、越谷学生課または湘南・東京あだち教育支援課HPをご確認ください!

越谷学生課 HP

湘南教育支援課 HP

東京あだち教育支援課 HP



【給付金額】

最優秀賞：10万円

優秀賞：5万円

佳作：2万円

努力賞：5千円以内

※採用数は最優秀賞～努力賞まで合わせて10件以内です。



2022年6月27日
文教大学 学生委員会

2022 年度チャレンジ育英制度(論文奨励)論文テーマ

以下①～⑤のテーマから 1 つを選択し、5,000 字程度で論述してください。 ※複数に出願は不可。

①『文教大学への提言』

標記のテーマのもと、現在文教大学に存する課題について論じてください。なお、『文教大学への提言』とは別にサブテーマを設定し、論点は1つに絞ってください。

【テーマの例(課題やトピック)】

魅力ある大学・キャンパスづくり、キャンパス間の連携、カリキュラム改善、地域連携や貢献、学生のマナー向上、課外活動参加率の向上など

②『過去に学んで未来に活かすにはどうしたよいか』

人類は言語を手に入れ文明を築き、過去の経験を世代を超えて伝える方法を手に入れました。他の生物と決定的に異なる点です。文字がない文明では口承というかたちで、文字を得てからは言葉を記録するというかたちで。しかし、その過去の経験はその後どう活かされているのでしょうか。活かされていないことが多いのではないのでしょうか。愚かな過ちに学び、よりよいあり方を切り開くことは人間にはできないのでしょうか。「温故知新」という言葉が古くからあるにも関わらず。私たちが個人の経験ではなく、世代を超えた経験を学び、未来に活かすためにはどうしたらよいか、抽象論にとどまらない具体的な考えを論理的に提示してください。

③『「女性が輝く社会」実現のために、今できることは何か』

「生産性向上・経済成長・地方創生」の切り札として、あらゆる分野での女性の活躍がますます期待されています。その実現のためにどうすれば良いのかを、身近な社会システムに着目し、具体的に述べてください。

④『大学・大学生と地域とのつながりについて』

文教大学では事務組織として地域連携課を設置し、高大連携・生涯学習・地方自治体との連携などの事業をおこなっています。また、大学生たちもボランティア活動などを通じて地域社会に貢献しています。今後とも、大学や大学生は地域社会とどのように連携し、いかなる役割を果たしていくべきか、具体的に論じて下さい。

⑤『文教大生が行う SDGs 活動の提案』

国連が定めた持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、文教大学生ができる活動について提案してください。活動の内容とそれを行うために必要なこと、活動の成果、活動の期日などについて述べ、何番目の開発目標に関連するかについても記述してください。

***専門性を問うものではありませんが、必要に応じ、文献などを調べ、論文にまとめてください。**

- ・未発表作品に限ります。
- ・卒業年次生については研究論文-卒業論文と類似のものは認められません。
- ・新聞・雑誌・インターネット・書籍等から文章・考え・データ等をそのまま引用したり、あるいはそれらを自身の言葉でまとめて記述したりする場合は、必ず引用した出典を文中に明記し、文末に出典と対応とする引用文献リストを記載してください。引用したにもかかわらず出典を記載していない場合は、「盗作」とみなされま

以上